りょうかわ

学校だより　令和3年7月20日発行　第8号　新潟市立両川小学校

この先１０年，私たちに何ができるか

校長　　中村　雅芳

６年生の総合的な学習で，７月初めより古泉修行（こいずみなおゆき）さんからゲストティーチャーとして入ってもらい，SDGs について学んでいます。SDGs とは，Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称です。2015 年９月の国連サミットで採択されたもので，国連加盟１９３か国が 2016 年から 2030 年の１５年間で達成するために掲げた目標を意味し，１７の大きな目標*と，それらを達成するための具体的な１６９のターゲットで構成されています。この取組が現実的で，力強いのは，掲げた数値目標を定期的にモニタリングしているところです。SDGs 達成に向けての進捗状況を，各国が自分たちで報告し合い，毎年７月頃にレビューを公開しています。裏を返せば，現在の地球は，世界は，それだけ問題山積で，このままでは立ち行かなくなってしまう深刻な状況だということです。

１月から放映され始めたＮＨＫスペシャル「２０３０　未来への分岐点」も，同様の危機感が核となり，制作された番組でした。これまで放映された５回分（地球温暖化，人口爆発と食料問題，プラスチック汚染，ゲノムテクノロジーの光と影，ＡＩの軍事利用），いずれも「このままでいいんですか？この先１０年が分岐点です！」と，私たち視聴者に選択と決断を迫る内容でした。私はこの番組から「本当にこのままではいけない」と，強い衝撃と危機感を覚えました。そんな折に，縁あって当校に来てくれることになったのが古泉修行さんです。

古泉さんは弱冠１６歳の少年です。しかしながら，すごい経歴の持ち主です。小学４年生で発展途上国支援活動を始め，小学６年生で子ども国連大使としてニューヨークにある国連本部で演説し，中学２年生でカンボジアの現地視察で感じたことを再び国連本部で語り，職員と議論までしました。発展途上国支援，経済格差の是正，地球環境問題に強い関心をもち，自分ができることは何かを常に考え，行動を重ねてきました。そして現在も，その途上にいます。そんな古泉さんから６年生に向けて，自分の体験に基づくお話をしていただきました。以下，内容を要約したものと，古泉さんから６年生に向けたメッセージです。３回目は９月を予定しています。

小学４年生の時に「もしも学校に行けたら アフガニスタンの少女・マリアムの物語」（後藤健二著／2009年）という１冊の本に出会った。日本では考えられないくらい困難があるマリアムの一番の望みは「学校へ行きたい！」‥僕は勉強が嫌いだったし，よい子ではなかったし，僕も僕の周りの友だちも「学校へ行きたい」などと言ったり思ったりしたことはなかった。そのギャップがショックだった。生まれた場所が違うだけで，なぜこんなにも違ってしまうのだろうと思った。そして，この本に書かれているような子どもたちをどうしても助けたいと思い，活動を始めた。

最初に取り組んだのはペットボトルキャップの回収だった。キャップ500個で，ポリオウイルスに感染している子ども1人を助けることができる。そのことをインターネットで見つけ，取組を決めた。僕1人の努力だと300個くらいしか集められないと思い，ポスターも書き，英語塾の壁などに貼って，先生方や他の子どもたち，親たち，みんなに呼びかける活動を始めた。2年半で約10,000個集めることができた。換算すると20人の命を救うことができたことになる。たった20人と思うかもしれないが，もし普通に生活していればこの20人は死んでいた。小学4年生の僕でも，20人の命を救うことができたことに，感動というか，強い衝撃を覚えた。

小学6年生の夏休みには少年少女国連大使として研修を受け，SDGs を学んだ。地球規模で物事を知ることで，地球規模で活動を考えられるようになった。中学２年生時には，カンボジアで途上国の実情を体験した。水たまりの泥水を飲んだり，屋根に落ちた雨水を飲んだりしている人の姿を実際に見た。研修後，自分なりに雨水や泥水を真水に変える装置を作ったりもしたが，これは自己満足に過ぎず，持続可能な取組ではないと反省した。

現在，僕が日常的にやっているのはスターバックスのマイボトルを使うことだ。スタバのコーヒー豆は，99%がフェアトレード，つまり「途上国で作られたものを適正な価格で取り引きすることで持続的な生活向上を支える仕組み」で作られている。また環境に配慮し，いち早く紙製のストローに変えたのもスタバだ。スタバのマイボトル使用は，これらの活動を支援したいという僕の意思表示だ。

他にもフェアトレード商品を選んで買うようにしている。マイストローやマイ箸を持ち歩いている。たったそれだけでいい。ＳＤＧｓは難しくない。日常生活の中で取り組めることはたくさんあるし，一人でもできる。そのことをより多くの人に伝える手段として，SDGsタグを考えた。自分ができるSDGsをタグに書く。それを鞄などの持ち物につける。こうすることで，持続可能な取組が多くの人に確実に広がっていくと考えている。

＜６年生のみなさんへ＞

今まで８年間，途上国の様子についてやSDGsについての啓発活動を続けてきましたが，６年生のみなさんは特に素晴らしく，新たな活動者・仲間が増えたことを実感できました。

逐一，発言を含め，大きなリアクションをとってくれる姿から，「僕の話していることを受け止め，理解してくれているのだな」というように感じることができました。SDGsタグを作成する工程では，全員が独自の考えや言葉を使ってタグを描けていて素晴らしかったです。ほぼ初対面の僕に，完成したタグを持ってきて見せてくれる子も多くいて，躊躇ないコミュニケーションができることにも驚きました。内容に関しては，タグに「教育を受けられることに感謝し，一生懸命勉強する」といったことを記載した子がいたことには驚愕しました。僕の「同じ年齢でも，生まれた国が違うだけで，勉強なんてする暇なく働いている子供もたくさんいる」という話を受け，深く理解し，自分ごととして捉えて考えなければ出てこない内容で，素晴らしかったです。他にも，「節水をする」と描いた子に対して，「どういった場面で節水をしようと考えているの？」という様な一歩前に出た質問をしても，スムーズに回答が返ってきて，よく考えて書いたのだなぁということが伝わってきました。

今日の授業はとても有意義で，本当に素晴らしいものになったと感じました。ぜひ，夏休みをかけて，自分が実践事項としてあげたことに取り組み，成果を残せたと思えるような活動ができたらいいなと思っています。

＊17の大きな目標

1. 貧困をなくそう　2. 飢餓をゼロ
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーを皆に クリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう　16. 平和と公正をすべての人に　17. パートナーシップで目標を達成しよう